

テーマ 1: マネジメント向け グループ研究

経営の変革に対応する中堅 IT 技術者のキャリアプランとは

～中堅層の将来を考えよう～

■概要

今、IT 技術者の中核を担っている中堅層を取り巻く環境は大きく変化しています。2007 年問題といわれる団塊の世代の定年を迎え、ノウハウをもった人材が減ってきていることや、日々の業務に追われ、若手技術者のようにスキルアップをする時間が取れないなど、将来に向けたキャリアプランを策定することすら、思うようにならない状況にあります。また、ビジネス環境は大きく変化し、IT に求められる要求もさらに厳しい状況にあります。

そこで、本研究では、中堅層の IT 技術者にフォーカスし、現在、どのような問題に直面しており、将来に向けてどのようなキャリアプランを考えていかなければいけないか、について検討していきたいと思います。

■進め方

- 1 回目: 問題意識の確認(外部環境/内部環境を踏まえて)
- 2 回目: 中堅層の IT 技術者の定義(若手と違い、先輩との違い)
- 3 回目: 中堅層の IT 技術者の目標(こうあればいいのでは?といったイメージの共有)
- 4 回目: 必要とされるスキルや知識(どのようなスキルを伸ばし補強していくか)
- 5 回目: 到達すべきレベル(業務で実現するパフォーマンスの設定)
- 6 回目: 目標人材に向かったキャリアプランの検討(将来に向けて)
- 7 回目: 具体的なスキルアップや経験のあり方(ジョブアサイン)
- 8 回目: まとめ(中堅層のキャリアプランの実現に向けて)

■募集対象者:

35-45歳程度の中堅 IT 技術者、または企業内の IT 人材育成に携わっている方

以上

テーマ2： マネジメント向け グループ研究

ビジネスの可視化による業務改革

～ビジネス戦略、業務プロセスを可視化するには～

■概要

企業は、変化への迅速な対応がますます求められ、業務プロセス・システムの再編やITを活用した業務改革が必要になっています。しかしながら、多くの企業では、業務やITに詳しいベテラン社員の定年退職や、経営層・業務部門とIT部門との間のコミュニケーションギャップなどがネックとなり、改革が困難な状況に陥っています。

本テーマでは、ビジネス戦略やビジネスプロセスの可視化を通して、ベテラン社員の業務知識継承や部門間のコミュニケーションギャップ解消を図り、業務改革に活用する方法を探ります。

■進め方

- 1回目： 6月：方向性・進め方討議、講演：Unisys 3D Blueprinting 紹介
- 2回目： 7月：モデル企業、検討対象業務の選定
- 3回目： 8月：モデル企業の視察、情報入手、課題整理
- 4回目： 9月：モデル企業のビジネス戦略の可視化
- 5回目：10月：モデル企業の業務プロセスの可視化（現状）
- 6回目：11月：モデル企業の業務プロセスの可視化（改革案）
- 7回目：12月：討議内容の整理、まとめ
- 8回目： 1月：報告書作成

※モデル企業に選定された場合には、検討対象業務の管理者、担当者の方のご協力を頂くことを想定しています。

■募集対象者：

- ・業務改善、業務改革を検討されている業務部門のマネジメント層の方
- ・ITを活用した業務改革を検討されているIT部門のマネジメント層の方

以上

テーマ3：マネジメント向け グループ研究

システム監査を利用した新しい視点のIT投資効果の研究

～システム監査の視点で投資効果の新しい発想を追求します～

■ 概要

近年、IT部門は、情報システムへの投資効果の説明を経営陣から強く求められています。しかし、経営に本当に役立つシステムであり、適正な投資であることを論理的に主張できるIT部門は少ないのではないのでしょうか？システム投資の必要性は、経営陣に十分理解されているものの、直接的効果（省力化、効率化など）が見えにくい情報システムのニーズが高まっている影響もあり、さらに、投資対効果が見えにくい状況であるといえましょう。

このような環境の中で、IT部門は、「根拠あるIT投資と効果測定のコトワタセ方」、「経営陣に主張できる適切なシステム投資効果の結果」など、自ら経営陣に対し、論理的かつ具体的に説明できる対応力の強化が求められています。

本研究は、参加企業のIT部門が考えるIT投資効果のコトワタセ方、効果測定手法、過去事例等を調査し、その上でシステム管理基準を利用したあるべきIT投資とその効果測定の研究を進めます。また、新しく制定された「工事契約に関する会計基準」、「グリーンIT」、「外部委託」、「セキュリティ投資」などのキーワードも含めた広い視野の研究を目指しています。

本研究会は、参加メンバーが自ら積極的に調査・発表を行うカリキュラムを採用することにより、システム監査、投資効果測定手法等の理解を深めることも目標としております。

■進め方：ワークショップ形式

- ① システム監査とIT投資効果に関する概要レクチャーと意見交換会（6月）
 - ② 参加メンバーによる「我社のIT投資のコトワタセ方、投資プロセス」の調査発表（7月）
 - ③ 参加各企業の「IT投資効果測定事例」、「成功、失敗事例の研究」（9月）
 - ④ 「M&AとIT部門の資産評価と価値」をテーマにした講演会（外部講師を予定）（10月）
 - ⑤ IT部門における「IT投資効果に関する課題」の発掘（10月）
 - ⑥ IT部門における「IT投資効果の基準とあるべきIT投資のコトワタセ方」の検討（11月）
 - ⑦ 課題解決に向けてのアプローチのコトワタセ方とロードマップの作成（12月）
- グループ研究報告書作成と評価（1月）

■募集対象者：

- ◇ IT部門、情報システム部門、業務企画部門、監査部門、この分野に興味をお持ちの方
- ◇ 前提知識は、特に必要ありませんが、本テーマに興味と探究心がある方を希望します

以上

テーマ4： マネジメント向け グループ研究

J-SOX時代のサービスレベル管理

～ IT全般統制を支えるサービスレベル管理のあり方とSLAの作成法 ～

■概要

J-SOXのIT全般統制対応と運用の全体最適化への基盤構築にITILが注目を集めています。

SLA（サービスレベルアグリーメント）・SLM（サービスレベル管理）はITILのキーファクターとして位置づけられており、統制の有効性と自社事業価値の拡大を図るためにはSLAの作成とSLMの実施が必須です。

本テーマでは、J-SOX時代のサービスレベル管理のあり方、SLAの作成方法について検討したいと思います。

キーワードは「J-SOX」「IT全般統制」「サービスレベル管理」「SLA」となります。

■進め方

- 1回目：J-SOX, SLA・SLMの理解（6月）
- 2回目：IT全般統制とSLA/SLMの関連性検討（7月）
- 3回目：IT全般統制におけるサービスレベル管理のあり方検討（8月）
- 4回目：SLA作成法の検討（9月）
- 5回目：モデル企業へのサービスレベル管理の適用検討（10月）
- 6回目：モデル企業におけるSLAの作成（11月）
- 7回目：J-SOX時代のSLA・SLMベストプラクティスとは（12月）
- 8回目：報告書作成（1月）

■募集対象者：

- ・IT部門の企画、または運用を担当され、SLA・SLMに関心をお持ちの方
- ・前提知識：特に必要なし

以上

テーマ5： リーダー・担当者向け グループ研究

企業における SaaS 活用について

～ 所有から利用への潮流の中、SOA 時代に SaaS をどう活用すべきか～

■概要

市場は今、「所有」から「利用」へと変化している。ソフトウェアの利用形態も、インハウス型からアウトソーシング型、オンデマンド型へとシフトしている。そんな中、インターネットの高速化と Web サービス技術の普及により SaaS (Software as a Service) が注目されています。SaaS は、インターネット上で機能単位に提供され必要に応じて利用できるソフトウェアで、他のシステムから連携・組み合わせることができ、ユーザサイドカスタマイズが可能などの点で、ASP の発展形と言われております。

一方、企業システム構築においては、社内外のサービスを組み合わせて構築することで開発コストを削減し導入期間を短縮、ビジネスの変化に迅速に対応できるシステム構築手法 SOA (Service Oriented Architecture) が普及しつつある。社外のサービスとして SaaS をいかに活用するかがシステム構築成功のカギとなっていくと思われまます。

本グループ活動では、事例調査や SaaS 利用体験を通じて、適切な SaaS の選定方法、インハウスシステムと SaaS の使い分け、SaaS とインハウスシステムとの連携手法・技術など、SaaS 活用のノウハウを研究します。

■進め方 (案) SLA、利用料金など研究内容は自由に設定してください。

- 1 回目：SaaS の概要レクチャー (日本ユニシス) (6 月)
- 2 回目：SaaS 市場調査・発表 (7 月)
- 3 回目：SaaS 事例、導入事例調査・発表 (8 月)
- 4 回目：SOA に基づく SaaS 利用技術 (サービス連携、マッシュアップ、BPM、ESB)
- 5 回目：SaaS 利用の実践 (RENANDI、NetCommons、PeacePlanet などの連携実験)
- 6 回目：SaaS 利用の場合のコスト削減試算
- 7 回目：SaaS 利用における課題と対策、SaaS ベンダーへの期待等
- 8 回目：グループ研究報告書作成と評価 (1 月)

■募集対象者：

企業、自治体、教育機関等の、情報システム部門、IT 利用部門
前提知識は問いません。

以上

テーマ6：リーダー・担当者向け グループ研究

IT統制時代における運用プロセスを考える

～IT 運用管理の維持改善を目的とした IT 統制とは～

■概要

運用管理の分野は、システム開発とは異なり、システムライフサイクルの最終工程にあることから、軽視されがちな分野ですが、業務運用と相まってシステムの真価を発揮する重要な分野です。

昨今、この分野では、内部統制強化の流れの中で、運用プロセスも IT 統制の影響を受け、今までとは違った観点での見直しが迫られています。

本研究会では、「IT 統制とは」という認識を共有しながら、運用プロセスの問題点・課題を洗い出し、その対応方法を検討しながら、運用プロセスのあり方を探っていただきたいと思います。

コーディネーター

杉浦 尚子 (ユニアデックス(株) 運用マネジメント部)

仲 敏行 (株)エイタス 管理部)

■進め方

「IT 統制」の理解を深めながら、各社での運用プロセスにおける問題、課題を明確にし、内部統制強化を前提とした運用プロセスのあるべき姿をご検討いただきます。

- 1回目：内部統制、IT 統制に関する理解の共有化、進め方の討議（6月）
- 2回目：各社の運用プロセスに関する問題点、課題の抽出（7月）
- 3回目：IT 統制の観点から見た運用プロセスの問題点、課題の抽出（8月）
- 4回目：IT 統制実施について※講師講演（9月）
- 5回目：IT 統制実施に向けた各社の問題点、課題への対応策協議①（10月）
- 6回目：IT 統制実施に向けた各社の問題点、課題への対応策協議②（11月）
- 7回目：IT 統制実施に向けた運用プロセスのあり方について討議（12月）
- 8回目：グループ研究に関する報告書作成（1月）

※NULグループ 内有識者を講師とした講演については適宜調整とし、スケジュールを変更する可能性があります。

■募集対象者：

情報システム会社等でシステム運用の管理をご担当される方、社内 IT 統制をご担当される方等

以上

テーマ7 : リーダー・担当者向け グループ研究

Web システムのユーザインタフェース設計ポイント

～見易さ、使い易さの追求～

■概要

近年、情報システムの見た目や操作性への注目が高まっています。しかし、ユーザビリティを高めるためにはどうすればよいのか、どのような原則に従って画面設計をすれば良いかは、あまり明確ではありません。本研究では、Webシステムのユーザインタフェースを設計する際、どのようにサイトを構成し、どのような画面レイアウトにし、どのように画面フローを設計すれば、高いユーザビリティを実現できるかについて考えます。デザイン工学や、認知学に基づいた原理・原則を土台に、基本的なWebシステムから、いま流行のリッチなWebアプリケーションまで、ユーザインタフェース設計のコツについて考察を行います。

■進め方

- 1 回目 : Web システムユーザビリティの現状についての調査
- 2 回目 : 成功事例研究
- 3 回目 : ユーザビリティを左右する原則について考察
- 4 回目 : 基本的な Web システムにおけるポイントについて研究1
- 5 回目 : 基本的な Web システムにおけるポイントについて研究 2
- 6 回目 : リッチな Web システムにおけるポイントについて研究1
- 7 回目 : リッチな Web システムにおけるポイントについて研究 2
- 8 回目 : グループ研究に関する報告書作成
- 9 回目 : 討議&まとめ

■募集対象者:

□情報システム企画部門の方、業務企画部門の方、この分野に興味をお持ちの方

以上

テーマ8 : リーダー・担当者向け グループ研究

システム構築を成功に導く提案依頼書（RFP）の書き方

■概要

RFPの目的は、企業の要求を満たす情報システムの開発に関する提案と概算費用の見積を得ることです。

また、RFP作成の効果は、

- ①システムの投資対効果の向上、
- ②ベンダ選定の透明性確保、
- ③ITや企画部門の人材育成等が期待できます。

企業のITや企画部門のメンバは、RFPを通じて、調達したい情報システムの全容を分かり易くベンダに伝えなければならないので、RFP作成のノウハウを持っているか、又はその能力を持った人材を育成する必要があります。

本グループ研究会では、RFPへ盛り込むべき項目をメンバ間で討議し、参加メンバがシステム構築時のRFP作成ノウハウを習得出来る事を目指します。

■進め方

- 1回目：オリエンテーション、メンバの自己紹介、サンプルRFPの紹介など<6月>
- 2回目：RFPに盛り込むべき項目の検討<7月>
- 3回目：RFPに盛り込むべき項目から目次の作成<8月>
- 4回目：ビジネス要件について（経営課題、目標）<9月>
- 5回目：業務要件について（業務課題、業務機能）<10月>
- 6回目：技術要件（非機能要件など）<11月>
- 7回目：その他の要件<12月>
- 8回目：最終報告書の作成1<1月>
- 9回目：最終報告書の作成2<2月>

■募集対象者：

経営企画部門、企画部門、情報システム部門等に所属されて、情報システムをベンダに委託開発する方を対象に致します。

以上

テーマ9：リーダー・担当者向け グループ研究

ソフトウェア開発におけるテスト技法

～ソフトウェア品質保証を目指すテスト設計～

■概要

IT 技術の社会生活への適用拡大には目覚しいものがあります。しかし、一方ではソフトウェア品質が社会に重大な影響をおよぼしています。要求定義や設計の上流工程は、インスペクションやレビューなどの技法や管理手法が導入されて来ましたが、テストについての基本的な考え方、技法の普及は遅れ、これにたいする反省が高まりつつあります。

本研究会では、

- ・ メンバーの経験や興味を共有化し、
- ・ 事例紹介、研究をとおり、テストでの成功要因と失敗要因を議論し、
- ・ メンバーが選定したテスト技法を学びます。

これを通してテストを成功させソフトウェア品質を向上させるには何が必要か、を考察していきます。

■進め方：ワークショップ形式（7～8回）：「テスト技法」を題材とした場合の一例です。

- 1 回目：各メンバーの問題意識、対応状況の紹介
- 2 回目：事例紹介～プロジェクトオーナーと開発 PM
- 3 回目：テストの成功とは何か、の検討
- 4 回目：テスト技法紹介
- 5 回目：テスト技法研究
- 6 回目：テスト技法実践
- 7 回目：活動報告書の全体の流れと骨子確認
- 8 回目：活動報告書の作成、討議&まとめ

■募集対象者：情報システム関連会社、開発関連会社等

現在あるいは今後システム開発やテストに携わる方

（開発責任者、プロジェクトマネージャー、開発者、テストマネージャ、テスト設計者等）

この分野に興味をお持ちの方

■キーワード：

テスト技法、ブラックボックステスト、ホワイトボックステスト、リスク・ベースド・テスト、Wモデル、テスト・ファースト

以上

テーマ10：リーダー・担当者向け グループ研究

効率的業務を実現する企業内コミュニケーション環境

～ワークスタイル変革に貢献するコミュニケーションシステム活用術と価値～

■概要

【起】企業の収益力向上・内部コスト削減・社員の効率的な業務を実現する方針テーマとして『ワークスタイル変革』を掲げた活動を推進する企業が増加しています。

【承】しかしながら、その『ワークスタイル変革』の取り組み実体をみると、社員PCのモバイル化であったり、フリーアドレスに代表されるファシリティ変更であったり、在宅勤務制導入であったりと取り組みとその期待効果は業種・業態により様々です。

【転】企業によっては『ワークスタイル変革』にゴール・施策など明確なガイドライン定義し、実行する専門組織を立ち上げ、着実に実行している企業もあります。それとは逆に、取り組みアプローチが様々な故に、経営層や情報システム部門、そして総務・人事部門の担当チームが自社適用に際し何を実行すべきか悩んでいる企業も多数存在するのも事実です。

【結】本研究では『ワークスタイル変革』のねらい・想定効果に多く掲げられる「社員の業務効率・生産性向上」を実現する企業内コミュニケーションシステムにフォーカスを当て、先進事例・最新ソリューションの調査・研究を実施し、どのようにすれば社員の効率的業務を実現する企業内コミュニケーションが実現できるか検討を行います。

■進め方

- 1回目：ワークスタイル変革への期待
- 2回目：現状のコミュニケーションシステム課題
- 3回目：課題に対する対策案と期待効果
- 4回目：導入事例研究
- 5回目：ベンダー研究
- 6回目：利用側の期待と管理・運用側の期待
- 7回目：導入企業ヒアリング（可能であれば、もっと可能であれば2回）
- 8回目：導入事例とグループ対策案との比較
- 9回目：グループ研究に関する報告書作成
- 10回目：討議&まとめ

■募集対象者：

情報システム企画部門の方、経営企画部門の方、社内ワークスタイル変革プロジェクト部門の方、または当分野興味をお持ちの方

以上

テーマ11：リーダー・担当者向け グループ研究

プロジェクトマネジメントの技術と信頼を得るために
～プロジェクト目標を達成し、プロジェクトを成功させる為には～

■概要

IT 構築&サービスのプロジェクトにおいて、プロジェクトマネジャーは、コスト、品質、納期の計画達成に責任を持つことが求められます。一方で、納期遅れ、予算オーバー、障害多発等の問題が発生し、当初の予定・想定から大きく逸脱し、最悪は本番稼動に至らない、というケースが発生しています。

本研究会では、

- ・ メンバーの経験や興味を共有化し、
- ・ 事例紹介、研究をとおし、成功要因と失敗要因を議論し、
- ・ メンバーが選定したプロジェクトマネジメント手法を学びます。

これを通してプロジェクトマネジャーとしてプロジェクト目標を達成する為に何が必要か、プロジェクトマネジメントの観点で解決の糸口やヒントは何か、を考察していきます。

■進め方：ワークショップ形式（7～8回）：「プロジェクト管理手法」を題材とした場合の一例です。

- 1回目：各メンバーの問題意識、対応状況の紹介
- 2回目：事例紹介～プロジェクトオーナーと開発PM
- 3回目：プロジェクトの成功とは何か、最適なプロジェクトマネジメントの検討
- 4回目：プロジェクト管理手法紹介
- 5回目：プロジェクト管理手法研究
- 6回目：プロジェクト管理手法実践
- 7回目：活動報告書の全体の流れと骨子確認
- 8回目：活動報告書の作成、討議&まとめ

■募集対象者：

現在あるいは今後システム開発に携わる方（企画者、開発責任者、プロジェクトマネジャー、開発者等）、この分野に興味をお持ちの方

■ キーワード：プロジェクトマネジメント、全体最適、プロジェクト管理手法、PMBOK

以上

テーマ12: リーダー・担当者向け グループ研究

ユーザ視点でサーバ仮想化適用の指針を探る

～現在の仮想化技術の実力を見極め、自社への適用範囲と導入タイミングを計る～

■概要

今年マイクロソフト社から Windows Server 2008 に標準搭載されるサーバ仮想化機能「Hyper-V」のリリースが計画されていることもあり、サーバ仮想化への期待が益々高まっています。しかしその一方で、サーバ仮想化には、パフォーマンス、ライセンス、サポートなどに課題があるとされており、ワールド ワイドでの導入比率は5%程度に留まっているのも現状です。

本研究では、サーバ仮想化を適用する際の課題をユーザ視点で評価し仮想化技術の実力を見極めることで、自社内システムへの適用範囲や導入のタイミングなどの指針をまとめることを目的としています。今後、具体的に仮想化を適用しようとお考えの皆様、是非ご参加ください。

■進め方

- 1回目：市場動向と Hyper-V/VMware Infrastructure の概要
- 2回目：サーバ仮想化適用の課題を整理
- 3回目：自社内での影響度、優先事項の調査
- 4回目：活動報告書全体の流れと骨子
- 5回目：活動報告書作成
- 6回目：発表用資料まとめ

■募集対象者：

以下のいずれかに該当する方。

- 日夜サーバの運用管理に携わっている方。情報システム部門の方。
- VMware/Virtual Server などのサーバ仮想化ソフトの使用経験のある方。
- 現在、自社内のシステムにサーバ仮想化の適用を検討している方。

以上

テーマ13：リーダー・担当者向け グループ研究

ワークスタイル変革によるワークライフバランス

～テレワークの実現へ～

■概要

「ワークライフバランス（WLB）について各企業での推進が広がっています。多様な社員に様々な働き方のオプションを与えることでWLBを推進、企業にとっては貴重な人材の確保、社員にとっては充実した生活と仕事を両立して働き続けることができ、また国レベルでも少子高齢化の対策となることで広がりを見せています。在宅勤務のためのクライアント環境やTV会議、携帯電話やグループウェアなどのICTがWLB推進に寄与できる場面が増えてきていますが、こうしたICT活用のためには従来の働き方を見直し、ペーパーレス化を進めて、会議のやり方や社内コミュニケーションまでを変革していくことが求められます。ワークスタイルの変革とICT活用の両面からWLB推進のために必要な要件などについて研究を進めたいと思います。」

主に以下の視点で検討します。

- ・テレワーク化の導入の課題を把握する（働き方の見直し、マネジメント、業務プロセス）
- ・テレワーク（在宅勤務）に必要なICT技術を理解する
- ・テレワーク化のメリットを整理・自社に持ち帰る

■進め方

- 1回目：テーマ趣旨説明、メンバー自己紹介、リーダー・サブリーダーの決定
- 2回目：発表（日本ユニシス事例）と討論（各社現状の把握）
- 3回目：詳細テーマ（方向性）の決定と討論。
- 4回目：発表（ユニアデックス。ソリューション紹介）と討論（働き方の見直しなど）
- 5回目：討論（課題）
- 6回目：討論（課題の解決策）
- 7回目：報告書構成の決定と分担
- 8回目：報告書まとめ

■募集対象者：

自社内のワークスタイル変革、テレワーク実現を考え、実現のヒントを得たいと考えている企業の経営企画/人事/総務/CSR/情報システム部門の方。

自社内のワークライフバランス推進、働きやすさ及び生産性の向上について考えたい企業の経営企画/人事/総務/CSR/情報システム部門の方。

テーマ14： リーダー・担当者向け グループ研究

次世代の企業ネットワークコミュニケーション技術を考える

～ワイヤレス、NGN、センサー、FMC等のビジネスへの活用～

■概要

現在の企業ネットワークにおいては、ブロードバンド・インターネットの隆盛、コンピュータの高性能化・小型化がもたらすネットワークの多様化・高機能化（携帯電話、ワイヤレスネットワーク）やサービス、アーキテクチャ面での進展（NGN(Next Generation Network)、P2P、Web2.0）などの多様で急速な進展が見られています。

今回の活動においては、まず、企業におけるネットワークコミュニケーション技術の変化・進展において、なに注目すべきで、どの様な変化がもたらされるかを洗い出します。そして、洗い出したネットワークコミュニケーション技術をいかに現実の企業情報システム環境へスムーズに適用することができるかについて検討する予定です。

コーディネータ：ユニアデックス（株） 津田喜人、山平哲也

外部アドバイザー：適宜

■進め方

- 1回目：現在の課題と整理、アプローチの確認
- 2回目：先行事例の調査・研究
- 3回目：アクセスネットワークの変化1（ケータイ、ワイヤレス、モバイル）
- 4回目：アクセスネットワークの変化2（RFID、センサー）
- 5回目：コアネットワークの変化（データセンターネットワーク、運用管理）
- 6回目：通信サービスの動向と影響1（NGN、FMC）
- 7回目：通信サービスの動向と影響2（Web2.0）
- 8回目：報告書まとめ

■募集対象者：

企業ネットワークの企画、推進、管理等を担当される方

以上

テーマ15：リーダー・担当者向け グループ研究

企業情報システムにおけるアプリケーション開発での中核技術とは？
～Java フレームワークにおける活用検討～

■概要

ITがビジネスと密接になり、システム開発環境は益々複雑化しています。システムを構成するミドルウェア製品や新技術への対応、開発者の作業を効率化するための開発支援ツールも高度化し、システム開発のプロセスも複雑化しています。Java アプリケーション開発においてオープンソースが普及し、開発環境から実行環境まで様々な場面でオープンソースを採用するプロジェクトが、多く見られるようになりました。しかし、同じような機能範囲の新しいオープンソースが多数登場しており、プロジェクトにあったオープンソース・フレームワークを適切に選ぶのは難しいと思われま

す。本グループ研究会では、企業のアプリケーション開発プロジェクトのオープンソース・フレームワークの現状と課題をさぐり、オープンソース・フレームワークの活用メリット、デメリットを明確にし、採用基準、および適用方法についてガイドラインを提示します。

コーディネータ :

日本ユニシス株式会社 OSS センター

■進め方

- 1回目： メンバー紹介、本グループによるテーマでのプレストミーティング
- 2回目： 日本ユニシスにおける取り組み紹介
- 3回目： 各メンバー様企業における取り組み紹介
- 4回目： プレスト、各社取り組みからの課題選定
- 5回目： 取りまとめ方針、範囲、評価、成果物方向性立案
- 6回目： 課題に絞られた関連有識者ヒアリング
- 7回目： 成果物策定、発表方針立案
- 8回目： 成果物等とりまとめ

■募集対象者：情報システム関連会社、開発関連会社等または

システム企画/情報システム部門で業務システム開発、システム開発標準化活動推進、アプリケーションフレームワーク等の企画担当の方

以上

テーマ16：若手社員向け グループ研究

IT技術者の仕事

～企業人4年～5年生に向け、役に立つテーマ～

■概要

IT技術者とはどのような仕事を生業とするのか。情報システム部門に所属する若き技術者を対象に情報システムに係わる広範囲な技術解説とその活用の意味を鳥瞰し、テーマを次の4つの分野に分け展開いたします。

1. ITをめぐる新しい動き 2. SEの仕事 3. SEの心得 4. SEが持つべき基本
使用テキストとして、平成19年4月発刊の「SE読本」(オーム社、妹尾・工藤 共編)を使用し、この本の著作者でもある前田からテーマごとの紹介・解説を行い、その後で全員で討議を行いながら進めます。また、特に参加者の興味の高いテーマについては外部アドバイザーも加えた特別講義も柔軟に実施したい。参加者に特に前提知識は必要としないが、討議を通して技術の理解を深めていただき、将来の仕事に向けた指針を持つことが出来るように心掛けていきたいと思えます。

■進め方

1回目：ガイダンス

2～3回目：ITをめぐる新しい動き

・経営とIT・企業の全体最適を目指すEA・SOAで具体化するコンポーネント・システム開発
・身近な社会問題「個人情報セキュリティ」・オープン・ソース・ソフトウェア(OSS)への期待
・合宿では、参加者の興味・課題をもとに今後の方向性を検討します

4～5回目：SEの仕事

・プロジェクト参加の第一歩は作業報告 ・標準化は仕事を円滑に進める基本
・プロジェクト成功の鍵 ・正確な見積もりが出来て一人前

6～7回目：SEの心得

・ストレスと上手につき合う方法・聴き上手は学び上手・キャリアパスは計画的に、継続的に資格取得にチャレンジ ・IT技術者の基本倫理

8～9回目：SEの持つべき基本

・競争優位を実現するデータウェアハウス ・グローバル・スタンダードの動向
・効果的なシステム作りには適切な開発方式をシステムにはライフサイクルがある
・合宿では、報告書のまとめ方について参加者で検討いただきます

10回目：報告書のまとめ

*2回目と、9回目に一泊の合宿を予定(参加者の方は有料となります。)

募集対象者：情報システム部門の4～5年生。女性の方も歓迎です。

以上

テーマ17：リーダー、担当者向け グループ研究

観光から地域活性を考える

～ IT が地域活性にどのように役立つことが出来るのかを検討します ～

■ 概要

元気な日本をつくるために、地域活性、地方分権などの議論が活発になってきています。ひとくちに地域活性と言ってもさまざまな側面があり、いろいろな立場のプレイヤーが複雑に関連してきます。今回はその中から、どのような地域にも当てはまると考えられる観光という側面から地域を考えたいと思います。

観光という側面でも地域の複数の企業に関連するテーマです。直接的な関係があまりなさそうな企業も含めて、複数の企業が連携し、観光客が集まってくるような地域づくりのためにどのようなことが出来るか、またそのような連携は別の側面での連携でどのように生かすことが出来るかを検討したいと思います。

■ 進め方

- 1回目：問題意識の確認、進め方の議論
- 2回目：現状分析、現状に対するプレスト
- 3回目：観光情報の整理と分析
- 4回目：地域に向けて観光の側面から IT が出来ることの議論
- 5回目：IT モデルのイメージの確認と共有
- 6回目：報告書の骨子と方向性の議論
- 7回目：報告書の作成と評価

■ 募集対象者

自分の住んでできる、(もしくは働いている) 地域を良くしたいという想いのある方を募集します。

テーマ18：マネジメント向け グループ研究

知識経営の概要と演習

～知識を活用し新しい価値を創造するには～

■ 概要

「知識経営」では、知識を用いて企業の競争力を高め、知識を核として事業を再構成し、知識を商品そのものとしします。つまり知識や情報を共有するだけでなく、得られた知識を活用することで企業の競争力と成長力を引き出し、ベストプラクティスを超えた新しい価値を創造します。

知識経営が正しく機能するには知識創造・活用の場に対して適切に働きかけることができるリーダーシップと現場の力が必要です。

本講では、輪読や懇談会、参加者の企業における仮説検証（試行）などを経て、知識経営の概念を身につけ、知識ワーカーの場としての組織はいかにあるべきか、また、その運用やシステムにはどのようなものが適しているのかを検討し、知識経営の礎を築くことを目標とします。

■ 進め方

- 1回目：テーマ趣旨説明、各メンバーの自己紹介
- 2回目：知識経営に関する書籍の輪読
- 3回目：有識者との懇談会
- 4回目：課題・事例調査・研究
- 5回目：ブレスト、あるべき姿の検討
- 6回目：具体的な方針の検討
- 7回目：各自、自社内における知識経営の検討と試行
- 8回目：活動報告書の全体の流れの確認と章立て
- 9回目：活動報告書の作成、まとめ

■ 募集対象者

経営企画部門のマネジメント層の方

情報システム企画部門のマネジメント層の方

知識創造・活用における現場のリーダーシップを担う方